

相手に話す技術・伝える技術を学ぶ 理数科2年コミュニケーション講座実施

ものごとを相手に分かりやすく伝えることは、どの分野で活躍するためにも重要なスキルです。現在理数科が行っている課題研究では、様々な発表会を実施しています。どんなに素晴らしい研究をしている、その研究内容を聴衆に上手く伝えられなければ、素晴らしい研究とは認めてもらえません。研究内容を聴衆に分かりやすく伝えることは、研究を行う上でも大切なことです。

IBC 岩手放送のアナウンサーを経て、現在はフリーのアナウンサーや司会、そして社会人ビジネスマナー等の研修講師として活躍している大高智佳子さん（Next-Stage）を招き、理数科2年コミュニケーション講座を11月24日に実施しました。講座では、発声やイントネーション、スピード等の話す技術、「伝えた」の一方ではなく「伝わった」の双方向にするための伝える技術を学びました。そして、研究発表の演習を行いました。演習では中間発表と同じ内容の発表を行いました。大高先生の教えを守り分かりやすく伝えようと努力している姿が見られ、成長が感じられました。平成29年1月20日に実施する理数科2年は課題研究発表会では、今回の経験が生かされると期待しています。



講師の大高智佳子先生



発表する前に気持ちを高めるための方法も学びました

- ◇ 大高先生が話し始めた瞬間から、プロの話し方に圧倒されました。笑顔で明るいトーン、視線もよく合わせていて目指すべきお手本を間近で感じる事が出来ました。私は声が低く話すことが得意ではありませんでしたが、低い声≠暗いではないことや話す「間」の取り方が大事だというポイントを教わったので、これからの発表で生かしたいと思いました。
- ◇ 相手に伝えることや発表することは、研究発表の他に部活動の吹奏楽でもいえることだと思った。部活動でもあてはまる事が多くあり、今回の講座で学んだことを意識していきたいことがたくさんあった。あらゆる場で生かして行きたい。
- ◇ 人前で話すのはとても緊張します。でもそれは自分だけでなく、多くの人がそうであること、その状況で分かりやすく伝えるにはどうすれば良いかを具体的に教えてもらいました。これからの発表会等では教えてもらった「ゆっくり・はっきり・間をおく」「目線を上げる」といったことを意識していきます。また、高校卒業後の社会でのプレゼンでも発揮できるように忘れずに実践していきたいです。